

[3] 母校だより

(1) 京都大学地球系教室および関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻の近況報告

社会基盤工学専攻長 戸田圭一

ただ今、ご紹介いただきました、平成27年度の社会基盤工学専攻長を仰せつかっています戸田圭一です。昭和54年学部卒、昭和56年修士修了でございます。



まず、社会基盤工学専攻の人事異動をご紹介いたします。平成27年6月現在の講座・分野の構成は以上のようなところです。赤字のところ、昨年の総会のあと新しくお見えになられた先生方です。赤字ではありませんが、インフラ先端技術共同研究講座の先生方も新たにいられています。採用は以上のようなところです。なお、PIPATPONGSA Thirapong先生は、社会基盤工学専攻にいられた後、6月1日の異動で、都市社会工学専攻に移られておられます。

また、先生方の研究分野を広げることなども考慮して、配置換、所属換が行われております。退職された先生方は以下のとおりです。とくに3月に定年退職された宮川豊章先生には、長きにわたり、土木系の教育・研究で大変ご尽力いただきました。この場を借りましてあらためて御礼申し上げます。

専攻運営におきましては、社会基盤と都市社会が合同で運営にあたっております。副専攻長の立川先生には主に入試関係を、中川大先生には企画を担当していただいております。授業のカリキュラムも、ごく一部を除いて2専攻共通のものがほとんどで、2専攻共通で運営しております。

次に私の方から、最近の新たな教育の試みについて、特色あるものをピックアップしていくつかご紹介させていただきます。

大学の世界展開力強化事業 - 強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点 - は、大津先生がリーダーとなり進められているプロジェクトです。今年度が最終年度のプロジェクトですが、ASEANの4か国、6大学と連携して、減災、災害復旧学、災害復興学、災害リスクマネジメント学に関する協働教育プログラムを開発するとともに、学生の国際化・単位認定を伴った学生相互交流、教員の国際化

を目指して、若手教員に海外での出張講義をお願いしております。8月の京都大学での集中講義は、サマースクール的なものに発展してきており、今年は、国立台湾成功大学や関西大学からも学生が参加いたします。

ミャンマー工学教育拡充支援プロジェクトは、ご逝去された小野紘一先生の跡を継いで白土先生が中心となって進められているJICAプロジェクトで、京都大学が中心となり6つの国立大学と連携して、ミャンマーのヤンゴン工科大学、マンダレー工科大学の教育・研究を支援するプロジェクトです。専門家として京都大学の先生が講義に行かれています。これに加えて、若手教員への研究指導、共同研究、留学生の受け入れと進んできております。

最後に博士課程教育リーディングプログラムの中のグローバル生存学大学院連携プログラムですが、防災研の寶先生がリーダー役を務めておられ、専門分野の枠を超えた俯瞰力と独創性を備えた、グローバルに活躍できる人材を5年一貫のプログラムで育てるものです。すなわち、①人類危機を乗り越え、人間社会の安寧に貢献する人材、②専門性に加えて幅広い視野と知識・知恵に基づく判断力・行動力を備えた人材を育成するものです。12部局が参画しており、地球系も参画しております。

このようなプロジェクトからこれからの教育のポイントをまとめますと以下のようなふうになるかと思います。

まずは国際化への対応です。留学生の幅広い受け入れとともに、国際化に対応できる人材の育成です。私としましては、留学を通して、異文化にどっぷりつかり、友人をつくり、自分自身を高めていただきたいと考えております。

もう一つは、広い視野を持ち、様々な分野で活躍できる人材、チャレンジ精神旺盛な人材の育成です。このような人材の育成が、昨年の東京支部長の太田様のお話にありましたように、「活動の幅を広げる、そしてそれが深さを増すことにつながる」と思います。

最後に、工学部・工学研究科をとりまく課題について簡単にご紹介します。年度初めの会議で伊藤研究科長が挙げられた課題をいくつかご紹介します。今年度から学部入試の改革（特色入試の導入）が始まります。大学院博士課程

工学研究科・工学部をとりまく課題

- ・学部入試の改革(特色入試)
- ・博士課程の充足率
- ・減少する運営交付金(電気料金の負担増)
- ・H28年度より新たな中期計画がスタート
- ・桂図書館
- ・物理系の桂移転



しなやかに、状況変化に対応していく管理・運営

の充足率の確保も課題ではありますが、これは2専攻では問題なく進んでおります。年々、運営交付金が減少するなかで、電気料金の負担増も頭の痛い問題となってきます。また桂キャンパスの図書館の設置、物理系の桂移転も、今後の課題です。

以上、色々な課題がありますが、状況変化にうまく対応した管理・運営を進めていく必要があります。

これからも土木系の教育・研究の向上に精一杯、努力していきますので、皆様のご指導、ご鞭撻、そして、ご協力、ご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

(b) 都市社会工学専攻の近況報告

都市社会工学専攻長 藤井 聡

平成3年卒の藤井でございます。本年度都市社会工学専攻長を仰せつかっておりますので、専攻の近況についてご報告致します。



2003年に3専攻に改組され、2006年に桂キャンパスへ地球系各専攻が移転して9年になりますが、地球系3専攻と建築学専攻が入っておりますC-1棟、C-2棟に続き、隣接してC-3棟が建設され、機械・物理系が移転をされました。これをもちまして一部を除き工学研究科のほぼすべての専攻の10年をかけた桂への移転が完了したということになっております。

まず、昨年の総会以降の当専攻の人事異動についてご報告致します。平成26年10月1日にCHARATPANGOON, Bhuddarak 先生が地震ライフライン工学講座の助教に、また、KANTOUSH, Sameh Ahmed先生が協力講座であります都市国土管理工学講座の特定准教授にそれぞれ採用されました。平成27年4月1日には、KANTOUSH, Sameh Ahmed先生が同じく都市国土管理工学講座の准教授に採用されております。一方、後藤 浩之先生が都市国土管理工学講座の准教授に昇任されました。また、村田 澄彦先生が配置換えでジオマネジメント工学講座、後藤 忠徳先生が同じく配置換えで地殻環境工学講座の准教授としてそれぞれ着任されました。一方、ジオマネジメント工学講座の松岡 俊文教授と山田 泰広准教授がそれぞれ平成26年8月31日と平成27年3月31日付で退職されました。同じく、ロジスティクスシステム工学講座の土井 勉特定教授と安東 直紀特定准教授、構造物マネジメント工学講座の石川 敏之助教が平成27年3月31日付で退職されました。

次に専攻運営ですが、専攻会議、入試や教務などの各種委員会、ウェブ管理や建物管理、総合セミナーやインターンシップといった講義カリキュラムなどについては社会基盤工学専攻と合同で運営しております。

大学院入試におきましては、国際コースの入学生が、大学院を受けられるように、「英語試験」をH27年度入学試験から開始いたしており、H28年度入試からは「国際コース

留学生の受験生」を定員の上でも日本人受験生と同等に扱う予定となっております。一方、現在、博士課程入学者が、毎年、定員を大幅に超過し続けている現状を鑑み、博士・修士の定員を見直すことを検討いたしております。

就職につきましては、近年の建設不況のあおりを受けて低迷していた建設コンサルタントや建設会社、道路会社への就職数が持ち直してまいった傾向が見られます。

都市社会工学専攻では社会基盤工学専攻と連携を図りつつ、土木、環境の新たな教育研究テーマを開拓し、若手研究者の育成、留学生、社会人の重点教育や国際化の推進を目指して、「アジアメガシティの人間安全保障工学拠点」「交通政策研究ユニット」といった教育・研究プロジェクトを推進、実施しています。

「交通政策研究ユニット」は、2014年に、それまでの低炭素都市圏政策ユニットを引き継ぐ形で設立され、社会人教育を中心に活動を続けており、2014年度までの累計の修了者数は236人にのぼっています。

一方、学部教育におきましては国際コースを設置し、8名の外国人専任教員を配置、全て英語による授業を提供し、日本人学生と留学生と切磋琢磨できる環境の中で国際的に活躍できる高度な人材育成を図っています。国際コース所属学生も年々充実しており、2015年4月には、留学生が14名（中国：7、マカオ：1、台湾：1、韓国：1、モンゴル：1、インドネシア：2、エジプト：1）、日本人が10名の合計24名が、新しい一回生として入学しました。

また、国際コースの運営においては、優秀な外国人留学生の獲得に向けて、績優秀者に対する奨学金の給付制度を設けております。奨学金の財源確保におきましては、京土会からたくさんのご寄付をいただいております。また、京土会の皆様方から個別のご寄附も多数頂戴いたしております。心より御礼申し上げます。

つきましてはこの国際コース運営も含めまして、今後とも京土会の皆様からの変わらぬご支援、ご協力をお願い致しますとともに、会員の皆様方の益々のご発展を祈念いたしまして、私からの近況報告とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

(c) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 米田 稔

本日はご多忙のところ京土会総会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せつかっております昭和56年卒業の米田と申します。よろしくお願いいたします。



都市環境工学専攻関連の近況について簡単にご報告させていただきます。

恒例によりまして、人事異動について報告申し上げます。平成26年度以降では昇任人事はありませんでした。新規採用といたしましては、平成26年4月1日に上田 佳代氏が環境衛生学講座准教授に、平成27年4月1日に日高 平氏が環境システム工学講座水環境工学分野助教に、それぞれ採用されています。ご退職・転出につきましては、平成26年3月31日付けで高部 祐剛助教が土木研究所へ異動になりました。平成27年3月31日には原子炉実験所放射性廃棄物管理分野の小出 裕章助教が定年退職を迎えられました。先生の当専攻関連分野への長年のご貢献に大変感謝する次第でござ

います。

これらの人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧はご覧のようになっております。

表に示しましたように、13の研究室で構成しており、桂キャンパスにございます6研究室、黄色の部分は天津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの2研究室、吉田キャンパス内でこの建物の西側にあります環境科学センターの1研究室、さらに、大阪府泉南郡熊取町にあります原子炉実験所内の2研究室で都市環境工学専攻を構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、13研究室、37名の教員で活動しております。このうち、藤井滋穂教授は、2014年に地球環境学堂・学舎長に再任され、現在も、その任に当たっておられます。

これらの研究室は京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、順調に発展を遂げてまいりました。ここに改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

当専攻の近況のひとつとして、アジアを中心とした国際的活動について報告させていただきたいと思っております。

2013年3月までの5年間に渡って進めてきました2つの大きなプログラム（日本学術振興会グローバルCOE「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」、そして科学技術戦略推進費戦略的環境リーダー育成拠点形成事業「環境マネジメント人材育成国際拠点」通称EML）の中で、当専攻としては、中国の清華大学深圳キャンパス、マレーシアのマラヤ大学キャンパス、ベトナムのハノイ理工科大学キャンパス内に、オフィスを設け、常駐の教員や研究員を配置しながら、教育・研究活動の拠点として活用してまいりました。その後、これらの拠点は各種フォローアップ経費や総長裁量経費、全学経費、民間企業からの寄付金などによ

都市環境工学専攻関連教員一覧 (37名)

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学* (桂)		高岡 昌輝	大下 和徹	水野 忠雄	藤森 崇	
		環境衛生学 (桂)		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子	
		環境システム工学 (桂)	水環境工学			西村 文武		日高 平
			環境リスク工学	米田 稔	島田 洋子	松井 康人		
			大気・熱環境工学	松岡 譲	倉田 学児			河瀬 玲奈
			都市衛生工学	伊藤 禎彦	越後 信哉			浅田 安廣
		物質環境工学	環境質管理 (流環)	清水 芳久	松田 知成			
			環境質予見 (流環)	田中 宏明		山下 尚之		中田 典秀
			環境保全工学 (環科)	酒井 伸一	平井 康宏			浅利 美鈴
			放射能環境動態 (原実)		藤川 陽子			窪田 卓見
		放射性廃棄物管理 (原実)		福谷 哲		今中 哲二 池上麻衣子		
地球環境学大学院	地球親和技術学廊		環境調和型産業論 (吉田)	藤井 滋穂	田中 周平		原田 英典	
エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学 (吉田)	東野 達	亀田 貴之		山本 浩平	

*：地球環境学堂との兼任 (2015年6月1日現在)

て維持しております。今も活発に活動を続けております。特にマレーシア拠点は今年度が5年間に渡って続けてまいりました日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」の最終年度となっており、この5年間の集大成を目指すとともに、新たなさらなる発展を模索しております。また、ハノイ拠点につきましては、今年度より学堂が中心となり当専攻も協力しながら推進します概算要求特別経費「海外サテライト形成によるASEAN横断型環境・社会イノベーター創出事業」において、重要拠点の一つとして活動を続けていく予定です。今後とも京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、これらの活動を充実させていきたいと考えております。

平成 26 年度卒業・修了生の進路

就職した卒業・修了生：41名

国家公務員：環境省、外務省

地方公務員：京都府、京都市

民間：日揮(2)、大阪ガス(2)、三菱電機(2)、タクマ(2)、三機工業(2)、JR西日本(2)、横河電機、鹿島建設、クボタ、パナソニックエコシステムズ、日本触媒、積水化学、日本下水道事業団、東邦ガス、ダイキン工業、Hitz日立造船、IHI、トヨタ車体、神鋼環境ソリューション、日水コン、日本工営、JX日鉱日石金属、ネスレ日本、アルモニコス、LIXIL、BNPパリバ証券、野村證券、ドイチェ・アセット・マネジメント、デンソー、データリンクス、クックパッド

都市環境工学専攻近況

中国・深圳拠点オフィス(清華大学深圳キャンパス内)2005年開設
2012年度のGCOEやEML終了後も民間企業からの寄付や総長裁量経費で維持



マレーシア拠点オフィス(マラヤ大学内)
2010年開設
JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」(2011年度～2015年度)



ベトナム・ハノイ拠点オフィス(ハノイ理工科大学内)2008年開設
2012年度のGCOEやEML終了後も学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで維持



最後に就職状況についてご報告申し上げます。この表に示しますとおり、昨年度就職した卒業、修了生は41名でした。その内訳としては、まず、国家公務員2名、地方公務員2名でありました。民間では化学プラントメーカーや環境装置メーカー、コンサルタントなどが引き続き多くなっておりますが、自由応募が主流となっております最近の就職活動を反映して、同一企業に複数名が就職するケースが目立つことが近年の特徴ではないかと思えます。

平成27年度卒業・修了予定者の就職につきましても、現在、選考を進めていただいているところではありますが、引き続きよろしく願いいたします。

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、よろしくご鞭撻ならびにご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

国際コース奨学金に対する謝辞

Country: Kenya

Affiliation: Kyoto University,
Graduate School of Engineering,
Civil and Earth Resources Engineering,
International management of civil infrastructure Lab., M1

Richard Wanjala



I would like to sincerely thank the Kyoto University Civil Engineering Alumni for their help in financing my undergraduate studies during my third year at the university. Their support in offering scholarships to students helped me to focus and channel my energy in what mattered most during the period. It was partly due to their support that I had a smooth time studying and eventually graduating with a degree in global engineering in the international course program.

Presently, I am undertaking my Masters degree program at Kyoto University. My research deals with bridge damage detection using ambient vibration and I am investigating on various issues affecting the contemporary structural engineering field.

Finally, I would like to thank the alumni on behalf of other international students for their continuous support and making sure they excel in their undertakings.

(2) 人事異動 (平成26年10月～平成27年10月)

(職名は異動後の職名, 但し () 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

H26.10.1	山口 弘誠	特 定 助 教	社会基盤工学専攻防災工学講座水文気象工学分野より防災研究所寄附研究部門 (日本気象協会) 気象水文リスク情報へ所属換
H27.3.31	宮川 豊章	(教 授)	定年退職 (京都大学学際融合教育研究推進センターインフラシステムマネジメント研究拠点ユニット特任教授へ)
H27.3.31	山田圭二郎	(特定准教授)	任期満了に伴い退職 (金沢大学環境・建築学部建築デザイン学科 准教授へ)
H27.3.31	城戸 由能	(准 教 授)	退職
H27.4.1	松村 政秀	准 教 授	新規採用
H27.4.1	麻植 久史	特定准教授	新規採用
H27.4.1	西田 孝弘	特定准教授	新規採用
H27.4.1	佐山 敬洋	准 教 授	新規採用
H27.4.1	上田 恭平	助 教	新規採用
H27.6.1	張 凱淳	特 定 助 教	新規採用
H27.9.30	〃	(特定助教)	任期満了に伴い退職
H27.10.1	〃	講 師	社会基盤工学専攻構造工学講座国際環境基盤マネジメント分野講師として採用
H27.10.1	金 哲佑	教 授	社会基盤工学専攻構造工学講座国際環境基盤マネジメント分野より社会基盤工学専攻地盤力学講座社会基盤創造工学分野へ所属換

【都市社会工学専攻】

H27.1.1	後藤 浩之	准 教 授	都市社会工学専攻都市国土管理工学講座耐震基礎分野助教より昇任
H27.3.31	土井 勉	(特定教授)	任期満了に伴い退職 (一般社団法人 システム科学研究所理事・上級研究員へ)
H27.3.31	安東 直紀	(特定准教授)	任期満了に伴い退職
H27.3.31	石川 敏之	(助 教)	退職 (関西大学環境都市工学部准教授へ)
H27.4.1	KANTOUSH, Sameh Ahmed	准 教 授	都市社会工学専攻都市国土管理工学講座社会・生態環境分野講師より昇任
H27.4.1	大友 有	特 定 助 教	契約更新

H27.6.1	PIPATPONGSA Thirapong	准 教 授	社会基盤工学専攻地盤力学講座社会基盤創造工学分野より都市社会工学専攻ジオマネジメント工学講座土木施工システム工学分野へ配置換
---------	-----------------------	-------	--

H27.10.1	松本 理佐	助 教	新規採用
----------	-------	-----	------

【都市環境工学専攻】

H26.12.1	中山 宏	特定研究員	新規採用
H26.12.16	李 相重	特定研究員	新規採用
H27.2.28	〃	(特定研究員)	退職
H27.4.1	日高 平	助 教	新規採用
H27.4.1	花本 征成	特定研究員	契約更新
H27.4.1	馬 寅	特定研究員	契約更新
H27.4.1	松田 俊	特定研究員	契約更新
H27.4.1	NGUYEN, Hoa Thai	特定研究員	契約更新
H27.4.1	Tasmin Saira	特定研究員	契約更新
H27.6.1	周 靚	特定研究員	新規採用
H27.6.30	劉 安	(特定研究員)	退職
H27.7.16	GUO engqing	特定研究員	新規採用
H27.10.15	河瀬 玲奈	(助 教)	退職 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センターへ)

【地球系事務室】

H27.4.1	萩原 敬三	掛 長	人間・環境学研究科掛長 (総務企画掛) より工学研究科総務課Cクラスター事務区庶務第一掛へ配置換
H27.4.1	櫻川 稔	掛 長	工学研究科総務課Cクラスター事務区庶務第一掛より企画・情報部情報推進課掛長 (情報システムサービス掛) へ配置換
H27.4.1	肥後 美佳	事 務 職 員	工学研究科総務課Cクラスター事務区庶務第一掛より本部構内 (文系) 共通事務部総務課共通総務掛へ配置換
H27.4.1	荒木 拓也	事 務 職 員	工学研究科経理事務センターCクラスター事務区会計第一掛より財務部財務課病院予算掛へ配置換
H27.4.1	真鍋 幸之	主 任	総務掛 (図書掛 (建築系)) より総務掛 (図書掛 (地球工学科)) へ配置換
H27.4.1	高城 雅恵	主 任	総務掛 (図書掛 (地球工学科)) より国立国会図書館関西館図書協力課へ配置換

[3] 母校だより

H27.4.1	安原 通代	事務職員	国立国会図書館関西館図書協力課調査情報掛より総務掛(図書掛(地球系))へ配置換
H27.4.1	山田 裕子	事務職員	総務掛(図書掛(地球系))より総務課(図書掛)へ配置換
H27.10.1	姉川 卓司	事務職員	工学研究科経理事務センターCクラスター事務区会計第一掛より施設部プロパティ運用課企画調整掛へ配置換
H27.10.1	福島 見恵	事務職員	附属図書館情報管理課資料管理掛より工学研究科経理事務センターCクラスター事務区会計第一掛へ配置換

(3) 学位授与 (平成26年11月25日～平成27年9月24日)

(課程博士)

3959	佐々木 亘	H26.11.25	種々の短繊維を用いた高強度繊維補強コンクリートの材料特性と配合設計に関する研究	3976	NOORHAZLINDA BINTI ABD RAHMAN	H27.3.23	MODELING FOR ACTIONS OF DIRECTIONAL SWITCHING AND GROUPING IN DEM-BASED CROWD BEHAVIOR SIMULATOR (個別要素法型群集行動シミュレータにおける方向転換とグループ行動に関するモデリング)
3960	木田 秀人	H26.11.25	漸増動的解析 (IDA) に基づく既設長大橋の耐震性能評価に関する研究	3977	吉田 隆浩	H27.3.23	流電陽極法を用いた鉄筋コンクリート構造物の維持管理に関する研究
3961	久加 朋子	H26.11.25	固定床領域を有する河川における掃流砂・河床変動特性と河川生態システム改善に関する研究	3978	畑 明仁	H27.3.23	地盤物性の不確実性を考慮した地中構造物の損傷確率評価法に関する研究
3962	黎 明	H26.11.25	Fatigue Evaluation of Rib-to-Deck Joint in Orthotropic Steel Bridge Decks (鋼床版のリブデッキプレート溶接部の疲労耐久性評価に関する研究)	3997	永谷 言	H27.3.23	分布型流出モデルによる流域土砂の生産・移動予測と管理への応用に関する研究
3963	Chandana Dinesh Kumara Parapayalage	H26.11.25	BUILDING EXTRACTION IN HAZARDOUS AREAS USING EXTENDED MORPHOLOGICAL OPERATORS WITH HIGH RESOLUTION OPTICAL IMAGERY (高分解能光学画像への拡張モルフォロジー演算子の適用による被災地域の建物抽出)	3998	峠 嘉哉	H27.3.23	流域開発や気候変動の影響を考慮した陸域水循環モデルの構築-中央アジア域を対象として-
3964	LEE, SANGJUNG	H26.11.25	SOURCE, OCCURRENCE AND MODELING OF PHARMACEUTICALS, PERSONAL CARE PRODUCTS AND ESTROGENS ON THE GYEONGAN RIVER BASIN IN KOREA (韓国Gyeongan川流域での医薬品類とエストロゲン類の排出源、汚染実態とモデルの作成)	3999	寺本俊太郎	H27.3.23	群杭基礎の水平および鉛直力学挙動に関する研究
3968	Duong Duc Toan	H27.1.23	Assessment of river discharge changes in the Indochina Peninsula region under a changing climate (地球温暖化時のインドシナ半島における河川流量の変動評価)	4001	田久 勉	H27.3.23	凝灰岩地山の大規模切土による地すべりの抑止に関する研究
3969	宮口 克一	H27.1.23	塩素固定化材を用いた断面修復材と犠牲陽極材を併用した断面修復工法の鉄筋防食性能に関する研究	4002	曾根 照人	H27.3.23	岸壁の耐震性向上を目的とした地盤改良の範囲と構造部材の塑性化に関する研究
3970	矢野 順也	H27.1.23	ライフサイクルの視点から見た廃棄物系バイオマス利活用に関するシステム解析	4004	本荘 清司	H27.3.23	高速道路橋コンクリート構造物の塩害に対する計画的維持管理に関する実践的研究
3972	四條利久磨	H27.3.23	橋梁上部構造に作用する津波波力評価手法に関する研究	4005	葛目 和宏	H27.3.23	弾性波法を主体としたコンクリート構造物の損傷度評価と維持管理に関する実証的研究
3973	志村 智也	H27.3.23	Long Term Projection of Ocean Wave Climate and Its Climatic Factors (気候変動に伴う波浪変化の長期予測と気候因子解析)	4006	飛ヶ谷明人	H27.3.23	交通障害及び道路ネットワーク性能の変動を考慮した都市高速道路の巡回計画策定に関する研究
3974	中原 知洋	H27.3.23	傾斜式護岸の地震時挙動の解明と耐震対策に関する研究	4007	PRAWIRA FAJARINDRA BELGIAWAN	H27.3.23	Role of Attitudes and Norms for Students Car Ownership Intention (学生の自動車保有における態度や規範の役割)
3975	岩井 裕正	H27.3.23	Behavior of Gas Hydrate-Bearing Soils during Dissociation and its Simulation (ガスハイドレート含有地盤の分解時における挙動及びその解析)	4009	萬谷和歌子	H27.3.23	ネットワーク上の航空需要を考慮した空港運営政策に関する研究
				4010	GUNAWAN PRAYITNO	H27.3.23	Temporal Migration and Community Development in Rural Indonesia (インドネシア地方部における出稼ぎ労働とコミュニティ開発に関する研究)
				4013	橋口亜由未	H27.3.23	環境水・排水中のペルフルオロオクタンスルホン酸の電気分解に関する基礎的研究
				4014	小山 陽介	H27.3.23	ナノ粒子の環境中曝露と体内動態に関する研究
				4017	李 善太	H27.3.23	限外ろ過膜を用いた下水再生処理プロセスにおけるウイルス除去に関する研究
				4076	鳥生 大祐	H27.9.24	圧縮性流体と固体の熱連成を考慮した多相場解析手法に関する研究

4077	CHAMIKA, DE COSTA	H27.9.24	Numerical Study on Indoor Climate Using Single-Phase and Multiphase Models (単相および多相場モデルによる室内気候の数値解析的研究)	4087	MANASANAN, TITAPUNYAPAT	H27.9.24	A GENETIC APPROACH FOR TWO-ECHELON CAPACITATED VEHICLE ROUTING AND SCHEDULING PROBLM WITH TIME WINDOWS (タイムウィンドウ付き2段階配車配送計画に関する遺伝的アプローチ)	
4078	高 東佑	H27.9.24	Mitigation Effects on Urban Flood by Installing an Underground Storage Box (地下貯留槽の設置による都市水害の軽減効果に関する研究)	4088	申 輝秀	H27.9.24	Stochastic Analysis For Water Pipeline System Management (水道管路システムマネジメントのための確率分析)	
4079	PAWAN KUMAR, BHATTARAI	H27.9.24	Study on River Dyke Breach Characteristics by Overtopping Flow (越流による河川堤防の決壊特性に関する研究)	4089	TAYMAZ, ESMAEILI	H27.9.24	THREE-DIMENSIONAL NUMERICAL STUDY ON FREE-FLOW FLUSHING FOR ENHANCING THE EFFICIENCY OF SEDIMENT MANAGEMENT IN RESERVOIRS (ダム貯水池におけるフラッシング排砂効率の向上を目指した三次元河床変動モデルに関する研究)	
4080	EL-GHARBAWI TAMER IBRAHIM MAHMOUD MOSAAD	H27.9.24	Geodetic accuracy observations of regional land deformations caused by the 2011 Tohoku Earthquake using SAR interferometry and GEONET data (干渉SARとGEONETデータを用いた2011年東北大地震による広域地盤変動の高精度観測)	4090	兵藤 誠	H27.9.24	Ecological Evaluation of Shifting Habitat History for Riverbed Management (河床地形管理のための生息場履歴の生態的評価)	
4081	HADYAN, HAFIZH	H27.9.24	Theoretical Analysis and Experimental Optimization of Solar Updraft Power Generator (ソーラーアップドラフト発電の理論解析および実験に基づく構造最適化)	4091	寺本 智子	H27.9.24	人工衛星リモートセンシングを用いた琵琶湖における水環境解析の基礎的研究	
4082	DANG QUANG KHANG	H27.9.24	DEVELOPMENT OF A NEW HIGH-STRESS DYNAMIC-LOADING RING-SHEAR APPARATUS AND ITS APPLICATION TO LARGE-SCALE LANDSLIDES (動的載荷高圧リングせん断試験機の開発と大規模地すべりへの適用)	4092	HAK MAO	H27.9.24	A DESIGN OF LOW CARBON DEVELOPMENT ACTION TOWARDS 2050 IN CAMBODIA (カンボジア国における2050年に向けた低炭素社会構築に関する研究)	
4083	ZHANG, RUNSEN	H27.9.24	Integrated Land Use and Transport Modeling with Computable Urban Economic Model : A Case of Changzhou, China (中国常州を対象とした応用都市経済モデルによる土地利用・交通統合モデリングに関する研究)	4093	郭 敏娜	H27.9.24	中国の家庭部門における燃料使用量の推計と室内空気汚染の影響評価	
4084	SATTRAWUT PONBOON	H27.9.24	EXACT SOLUTIONS FOR LOCATION-ROUTING PROBLEMS WITH TIME WINDOWS USING BRANCH-AND-PRICE METHOD (分枝価格法を用いたタイムウィンドウ付配置配送計画の厳密解)	4094	PRAPAMON, SEEPRASERT	H27.9.24	The Influence of Soil Fungi on the Sorption of Cesium and Strontium within Organic Layer of Soil (土壌有機層中でのセシウムおよびストロンチウムの収着に及ぼす土壌菌類の影響)	
4085	HAMID, BASHIRI ATRABI	H27.9.24	HYDRAULIC ANALYSIS OF TRANSIENT FLOWS WITH INTERFACE BETWEEN PRESSURIZED AND FREE SURFACE FLOWS AND ITS APPLICATIONS (圧力流れと自由表面流れの境界面を有する過渡現象の水理解析法とその応用)	4095	MOCHAMAD ADHIRAGA, PRATAMA	H27.9.24	MODELING THE FLUX OF RADIOCESIUM REDISTRIBUTION IN A RIVER CATCHMENT FOLLOWING FUKUSHIMA NUCLEAR POWER PLANT ACCIDENT BASED ON THE WASH-OFF PROCESS (福島原発事故後の河川流域中放射性セシウム再分配流れの洗い落としプロセスに基づくモデル化)	
4086	松本 理佐	H27.9.24	鋼橋に生じる疲労き裂の簡易な補強・補修工法に関する研究	(論文博士)	4112	茅野 牧夫	H27.1.23	道路行政におけるアセットマネジメント・システム適用の実践的研究
				4117	寺田 典生	H27.3.23	プレストレストコンクリート橋におけるPCグラウト充填状況に着目した維持管理のあり方に関する研究	

(4) 学生の進学・就職状況

平成26年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(H27.10.1)

(尚、総会時、各学科専攻長報告の数より若干変更有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環 学舎 情報	4 3 3 2 1		
修士課程					地球	122
研究生・その他 (他大学)	社基 都社 都環 学舎	3 2 1 1	社基 都環	1 1	地球	5
学校関係	社基 都社 情報	2 3 3				
環境省			都社	1		
国土交通省			社基 都社	1 4	地球	1
内閣府					地球	1
外務省			都環	1		
独立行政法人	都環	1	社基 都社 学舎 情報	2 1 1 1		
都道府県	情報	2	社基 都環	2 1	地球	1
市町村			都社 都環	1 1		
道路	社基	1	社基 都社 情報	5 3 1		
鉄道・航空	社基	1	社基 都社 都環	2 7 2	地球	1
電力・ガス			社基 都社 都環 学舎	7 5 3 3		
建設会社	社基	2	社基 都社 都環 学舎 エネ科	9 7 3 1 1	地球	2
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子			社基 都社 都環 学舎 エネ科	5 5 7 2 4	地球	1
セメント・コンクリート	社基	1	社基	2		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
コンサルタント	社基	2	社基 都社 学舎 情報	9 5 3 1		
環境産業			都環	3		
銀行・商社・ 証券・保険			社基 都社 都環	3 3 2	地球	4
不動産			都社	1		
シンクタンク			社基 都社	2 1		
各種外郭団体 (地方公社・事業団含む)			都環	1		
情報通信			社基 都社 都環	1 4 2		
サービス業・ その他	社基 都社 都環 学舎 情報	13 7 6 3 1	社基 都社 都環 情報	4 6 3 4	地球	6
合計	社基 都社 都環 学舎 情報	25 12 8 4 6	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	59 56 33 12 8 5	地球	144
		55		173		144

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に
 応えて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的
 に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語
 の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多く
 あった。このような問題に対応するため、平成13年度から
 平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学
 特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都
 市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コース、工
 学部地球工学科では学部生を対象とする国際コースを平成
 23年4月より開設している。